

初音 玲
HATSUNE, Akira

帳票システムのカンドコロ エンドユーザーの視点に立った帳票システムのあり方

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level



Samples

はじめに

企業におけるコンピュータシステムが、汎用機からWindowsをクライアントとするオープン系のシステムに移行しはじめたところに、よく取り上げられた話題がある。それは汎用機から出力していた帳票をどうするかというトピックだ。

なぜこのようなことが取り上げられたのかというと、そのころは汎用機プリンタに比べてWindowsから使えるプリンタの性能が低く、大量印刷を行なった場合の処理時間が問題だったからだ。また、帳票を定義する仕組みなども弱かったこともある。

では、現在の状況はどうだろうか。汎用機プリンタとまではいかないまでもWindowsから使えるプリンタの速度も上がってきている。また、帳票を定義する仕組みもかなりよいものがあるようになってきている。今だったら、泣く泣く諦めていた帳票が移行できたり、帳票がネックになって汎用機から移行できなかったようなケースについても

Windowsをクライアントとするオープン系システムにシフトできたりするのだろうか。

実際にお客様からの依頼を受けてさまざまなシステムの設計/構築に携わってきた経験を踏まえて、ハードやソフトの機能制限から生じる限界点という視点からではなく、エンドユーザーの視点に立った帳票システムが構築できるか、もう一度考えてみたいと思う。

要件検討時の注意点

システム構築の第一歩は、そのシステムに必要な機能を洗い出し、求められている姿の全体像を描き出すことだ。これを要件定義というが、そこで最初に重要になってくるのは、どこまでをシステム化するかという点だ。

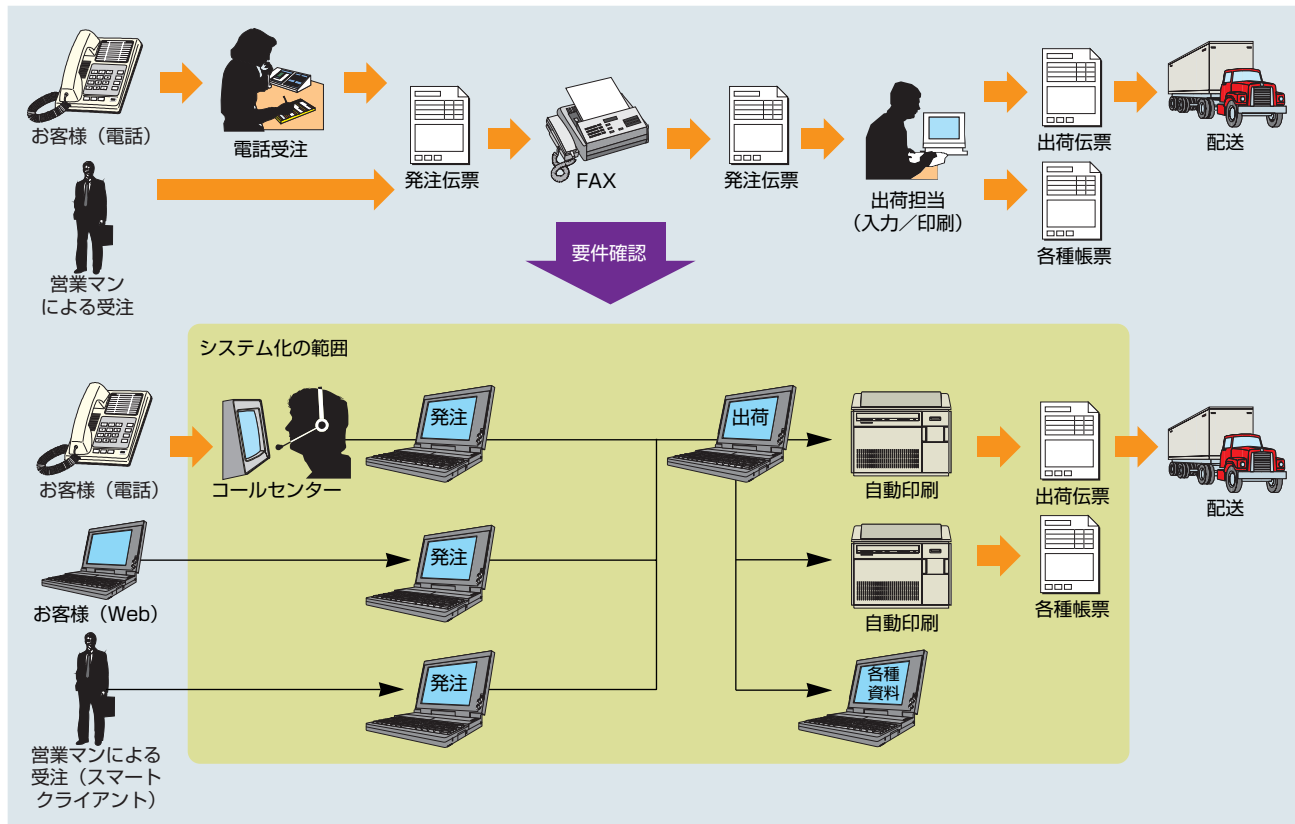


注意点-1

どこまでをシステム化?

帳票システムにおいても同様で、システムに入力する帳票(伝票)はどれであり、システムから出力する帳票

図1: システム化範囲



(伝票)はどれであるかを明確にする必要がある(図1)。また、現在は紙媒体である帳票のどの部分を電子媒体にするかという点も重要だろう。

注意点-2 媒体の違い

帳票が紙媒体であるか電子媒体であるかの違いから生じる事柄について、エンドユーザーとは、どのようなコンセンサス(合意)を取っておく必要があるだろうか。

最近では、ペーパーレスという観点から、画面で済ませてしまったり、PDFなどの電子媒体にしてしまったりすることが多いが、最終的にどのような目的で使うのかにより総合的に判断する

必要があるだろう。たとえば、以下のように単純な切り分けを行ない、個々に妥当性を検証してみるのがよい。

- ①画面で十分視認性がよいのであれば画面
- ②PDFのように表示倍率が変わることで飛躍的に視認性が高まるのであればPDF
- ③最終的には必ず紙媒体に出力してから使うのであれば紙媒体

もちろん、システム構築側の都合により、上記のいずれかのパターンにすることを説得するのではなく、エンドユーザーと一緒に何がベストか、そして、そのベストな解がシステム化でき

るかどうか、コストなども含めて検討するのがよいだろう。

注意点-3 印刷方式

伝票や帳票を紙媒体で出力することが決まったならば、次は、どのように出力するかを検討だ。印刷枚数などからプリンタに必要な印刷速度や給紙枚数、印刷方式(ラインプリンタなのかページプリンタなのか)などを検討していく。Windowsから直接印刷できるプリンタにこだわり過ぎず、場合によっては、業者などのアウトソースを利用して、高性能な高速プリンタによる一括印刷や、三つ折りハガキなどの特殊用紙への印刷、封書封入から郵便局